

## はじめに

英文を読める人と読めない人の違いはどこにあるのか。おそらく大半の人は単語力と文法力があると答えるだろう。しかし、その2つの力があっても内容を読み取れないことがある。なぜなら、知識的バックグラウンドが重要になる場合が多いからだ。特に言語論、哲学論、医学論、遺伝子論などについて書かれた英文はそうである。

もちろん単語力と文法力が必要であることは言うまでもない。ただしそれだけでは読解はできない。たとえば、「時間論」を読み解く際には次のような知識が必要となる。時間には大きく分けて、物理的時間（時計で測れる）、生理的時間（人間の肉体的衰えなど）、内面的時間がある。中でも大切なのが、内面的時間についての考え方だ。人それぞれに内面的な時間の感覚は異なる。たとえば、自分の好きなことをしているときには時間が速く過ぎるように感じたり、逆に嫌いなことをしているときは時間が過ぎるのが遅いと思えたりする。こうした経験や知識のバックグラウンドがあってこそ「時間論」を正しく読み解くことができるのである。

また、「遺伝子論」についての英文で、*assembling cells from basic components*という表現が出てきたとき、「基本的要素から細胞を組み立てる」と訳すことができても、その基本的要素がDNA、タンパク質、脂質などであること、それと「自己再生能力があってはじめて生命と言える」ということを知っているかどうかで読み方が違ってくるのである。

物語文やエッセイでも同じことが言える。その背景がつかめないとそのシーンが頭に思い浮かばない。頭に浮かばないということは、登場人物がどこでどんな心境で何を言おうとしているのか、その真意がわからず、ストーリーの展開がつかめなくなる。歴史小説ならば、時代背景がわからなければ内容を明確に把握できない。SF小説ならば、その舞台のみならず、どんな視点で読むべきかを判断しなければならない。たとえば、2018年のセンター試験、第5問に「惑星X探検日誌」の話が出題されたが、それは、タコのような容姿の宇宙人が地球を訪れ生命体を探すという内容だった。通常の小説の読み方では読み解けない。読んでいくうちにそれに気づくかどうかは、SFがどのようなものかを知っているだけではなく、SFの文章の読み方に慣れていることが要求される。

この問題集はこうした問題に対処すべく、文章の読み進め方やその内容をつかむ練習ができるような工夫を施している。長い一文の場合、その文を前

から短く区切り、一区切りごとで意味をつかみながら前から読み進め、文全体の意味を論理的に組み立てていけるようにスラッシュ和訳を提示している。たとえば次のように。

People have become so accustomed to using the car for everything that it would never occur to them to employ their legs and see what they can do.

People have become so accustomed to 「人々は…にあまりにも慣れてしまっている」と読み、using the car for everything 「何でも車を使うこと」と読み進め、it would never occur to them 「それ（仮の主語）が自分たちには思い浮かばないだろう」と結びつけ、to employ their legs and see 「足を使って…をみってみる」と、what they can do 「それらで出来ることは何かを」と順を追って訳し、「人々は、何でも車を使うことに慣れてしまっているので、足を使って何が出来るかをみってみることなど思いもつかない」と、つないで訳せるように促している。また、英文全体の内容を把握できるように、先ずは各パラグラフの要約の仕方を説明した模範要約を示し、英文全体の要約の仕方と全体要約に至るまでのプロセスを提示している。こうした文章の読み方に慣れることで、読解力と背景知識が深まり、世界観が広がるだろう。

何でもやってみないとわからないものであるが、何をどうやるかで方向性が決まってくる。ただ単に和訳するだけ、答えの導き方を詳しく説明するだけの参考書で学んでも不十分である。その英文の内容や背景を考えないようでは読解力や知識は身につかない。

とにもかくにも、この問題集を手にとって先ず一問やってみてほしい！難解な長文の意味がすんなり頭に入ってくることを実感するはずだ。この問題集に沿って学習を続ければ、真の読解力が身につき、合格への扉が開かれるだろう。

## 本書の使い方

本書は「問題冊子」と「解答・解説編」に分かれています。まずは「問題」に取り組み、その後「解答・解説編」を読むという流れになります。

### ①各問題の標準解答時間を目標に解答する。

あくまでも目標ですので、達成できない場合もそのまま解答を続けてください。

### ②各パラグラフの要約を書く。

解答後は、すぐに答え合わせをするのではなく、本文の要約を試みてください。書くことによって、自分の理解度を知ることが出来ます。要約が書けるまで何度でも読み返してください。分からなかった語句などを調べながらで結構です。この作業を通して皆さんの思考力を高めることが可能となります。

### ③解答・解説編で答え合わせする。

各設問の解答の根拠が明確に示してあります。英文和訳問題では文構造も明示してあるので「なんとなく」ではなく「厳密に」理解することを心がけてください。

### ④解答・解説編でさらに学習を深める。

パラグラフごとに皆さんの学習を深めるための仕掛けが用意されています。それぞれの目的を理解し活用してください。

#### 【For slash Reading】

速読練習として活用してください。「日本語で訳しながら読む」のではなく、「英語のまま左から右へと読み進める」練習をすることが目的です。

#### 【Sentence Structure】

精読学習として活用してください。構造を見失いそうな複雑な文や、重要構文を個別に解説してあります。

#### 【Words & Phrases】

本文中に出てきた重要語句を整理してあります。しっかり記憶しましょう。

#### 【Road to Summary】 & 【Summary】

読解プロセスの確認に活用してください。ここでは各段落の論理展開を整理し、それを元に要約してあります。解答後の皆さん自身の要約と照らし合わせながら学習することで、理解度を図ることが出来ます。

**【Watch Word】 & 【Answer】**

英文をより深く理解する視点・ヒントを与えてくれる語句を、質問形式で取り上げています。知識・思考力を身につけるために活用してください。

**【Road to Overall Summary】**

Road to Summaryでは、各段落の要約を作るためのヒントを提示していますが、ここでは、本文全体の要約を作るにはどこに注目すべきか、また、どのように要約を作るのかを解説しています。複数の段落から構成される1つの長文として見た場合に、各段落がどのような役割を果たしているのかが理解できます。

**【Overall Summary】**

本文全体の要約と、「主題・事実・立論・結論」という簡潔な要約から成ります。「主題」とは各長文のテーマであり、何について書かれているのかを、「事実」とは筆者の分析対象あるいは描写対象である本文中の事実を、「立論」とは「事実」に対する筆者の提案や分析であり、「結論」とは筆者がその長文を通して一番言いたいことである主張をまとめています。

1つ1つの英文が集まり1つの段落になり、そして複数の段落から構成される1つのまとまりのある長文としての鳥瞰図と考えてください。

intellectual 「知的な」

 progress 「進歩」

### Road to Summary

冒頭部分で「赤ん坊や幼児の知性の存在」について論じており、第②文以降の主語は全て第①文中にある babies and young children を受ける代名詞 they となっている。また think, know, understand などの単語レベルでの言い換えを把握する。そして最終文で、それまでの情報を最初の2年間での extraordinary intellectual progress だとまとめている。

### Summary

生後2年間で、大人が考える以上に子どもは知的成長を遂げる。

### Watch Word

第②文以降 S が全て they であることからどのようなことが考えられるか？

### Answer

S に変更がない場合、その文と文との関係性は「言い換え」である場合が多い。

## 12

### For Slash Reading

● For most children, / intellectual development slows dramatically / within a few  
 大半の子どもにとって / 知的発達は一時的に遅くなる / 数年のうちに  
 years. / ● By the time they are in elementary school, / children have lost much /  
 / 彼らが小学生になるまでに / 子どもたちは大半を失ってしまう /  
 of the curiosity and resourcefulness / that a few years earlier / made them excellent  
 好奇心と臨機応変に対応する力の / 数年前に / 彼らを優れた探査者に  
 explorers. / ● As educator Eleanor Duckworth explains / in her book *The Having of*  
 していた / 教育者であるエレノア・ダックワースが説明するように / 自身の著書「素晴らしい  
*Wonderful Ideas*, / once children begin school, / their natural enthusiasm and  
 考えを持つこと」で / いったん子どもたちが学校に上がると / 彼らの生まれつきの熱意や  
 curiosity become suppressed / so that their needs are adjusted / to fit those of the  
 好奇心が抑圧されるようになる / その結果彼らの要求は調整される / 大人の要求に合わせる  
 adults / whose job is to teach them. / ● A young child / who breaks something /  
 ために / その大人の仕事は彼らを教えることである / 幼い子どもは / 何かを壊す /  
 to see what it looks like inside / or asks a question / that is socially embarrassing  
 中がどのようにになっているかを見るために / あるいは質問をする / 社会的に気まずい

**Overall Summary**

驚くべき創造性を持った子どもたちも、周囲の大人の影響で小学校に上がるまでに、その創造性の大半を失ってしまう。しかし、民主主義国家では、他者へ共感を示し、協力して問題解決できるような市民を必要としている。したがって、学校はそのような市民を生み出すような教育を行わなければならない。

**主題：**共感力を養う教育の必要性。

**事実：**子どもは、小学校に上がるまでに、周囲の大人の影響で創造性の大半を失う。

**立論：**民主主義国家では、他者と共感し、協力して問題を解決できる市民が必要である。

**結論：**他者と共感し協力して問題を解決できる市民を生み出すような教育をすべきである。